



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



春色居巳園
四編
中

特
〜遠13
842
11



遠
842
11

梅曆あまのあき 春色辰巳園春の拾一
餘興

江戸 狂訓亭主人著

第九條

同下流の川行も北の世畧の山谷堰舟宿多死その中小
 名も高橋をへとへ方畧の内畧よむ懸とて女をさるもを
 地つりし情自深き信切者妹とあせり延津がたの頼ふよめて
 てがが 心懸くも日る接むより善くしてあふ小舟ハ如奇所の海畧
 ちるまへりて仇者多死以て病氣とも志る後公表の格

明治三十八年
十月十八日
購求

けは申しあまのり成さ小元て何ぞうまふるうりて
子とて是事いときてしつが子ま心もひくくまれ
まふ居てやうくおると毎日く月ぎうひごの床用だ
なびらごのトままも日圓がふいぬどうぞ私か他所い
あうづねやてくまうとりの女今月入は方の毎天さまかま
やまうさあつふそしてア着病の母にてもあうさるの
トしおれて休むの泣るう母の死去しより親類も病人
のこせも事く日小二三夜近不隣家の者が事りく業の世

活るどしとくまらるや喜れよ不自ゆるのこを恨く
たまーければお涙も不役と涙と僅一なる
因りしは被傍者ると居るうんまの仇をせぬ絶死
修切者るといごとれも今の嫁入てはえ傍のうか母
ゆるとのあひらひいぬ因あるゆもあうりーとをそめく
人の身のと入むとあまよさらあれ者るー何事もらる
あれがふあなれがあまよさらあれ者るー何事もらる
とたふ下格の心とあまよさらあれ者るー何事もらる

あはれものぞ欲より人おだぬさ道中さく晚ゆく悔しき
ちとまじし何事も情しきを身と守候と城のどく
おあし人

○ 世は申の今日をかりこそ同くけし

世のふすだ 世に 世に 世に

かしてお海を遠くはる女もまはれ候きく木敷合はるは露
て今もるど小まにそまに山谷より帰りに候きく
の松よとをりけるあえりゆん米八が延津をのちすり

世の病氣初はのち候きく久
川中候きく次子小治する困る一人身もが病
ゆへは何事も人おとまらるる候きく
所もあふんはるまはれ候きく
為小あふ人まはれるまはれ候きく
具身をも書入すり一利舟の合借する者へは候きく
去るは執心ゆては癖は欲非道の曲者本羅羅橋の鬼
九年今日申はと候きく



かね
とら
りて
鬼九郎
おんくろ
も
佐吉
様
い
と
む

今も海でいりくをみるくすトあるまらざる鬼九弁の向山 未入
 モシ押入が徳者さん不備の今も何程ぞん 一押入のうう仇
 者さんとの色の意を地を執回せと望みまらざるお長八
 も入初らる米八さん 未入一人の望も七十五日までわうの鬼
 も角の今もあや 其の足牙同前を移るまらざるお長八
 わて多き今もいりくす 未入何れとてとせ入まを
 たらふ七あサト鼻をわらうわらういりく米八さん
 して大金ゆふお長八と思ひてわらういりく米八さん

懐中より今もいりくす 紙小裁小判をあはく七あせ
 鬼九弁へさうつけ 米八 濟文がわらうお返り 米八
 とあはくトしりしとて 望つら 鬼九弁 未入さんあ
 押入が代りあの大令紙 移 未入 徳者さんでも
 移でもちるあひ 濟業 一かりり 勿体ないやと 濟令紙
 米八さんあわらうまらとのサ 箱入を付さんでしりあえらる
 未入の徳者さん 遠のけまら 濟令紙とよまらしてを弁お
 吟り 未入 濟令紙 米八さんあわらう 米八さん

とまゝのひーとふけ抱りづらーまぐらも痺れ
痺れ多ぶーとまゝとわかれとまゝもまじやあひ移入ト
漏らろく米八が白皮あぶをわけは米八も焼きまひ
ぬ乳性皮知るゆふの中心を煮たり眼はうるすーと良
きーあまサ焼えんを移す乳をわりのまをまよ何ごと
縮づくぶよまめせおま人の心トヤアね皮あひとま思ひど
らうが口うる乳をまきいねが心ぶらぞまきまのふらま下ー
ておまあーあひらとあひま金所ねがまより入丹えん

とん舞ふと思ひま今日まを焼くけまどまぎあうく
小嶋の沙流もるーおま人の痛乳のまのとり入ーあまふ
おまも乳まーとりの乳あんむも大まろ難養ーと心まど
とり入と心ままろろおつげまどかひらまろくまろ
るのま今日まあくーあまらまてたまろあひろろまえんま
ねトままろちまけーあひまろま焼きいふま命米八えん
まどま今ままのこまま真ま又ま焼きーとあくれあま
丹えんままろくまあひのま米八あまろまのまろろまけま



ありける回まがらいらうは丹ええは親わ加んがん道ち申うをは大病び
 ごといりのあらむかむまこのいんづうう像や又は縁ゆきをなすと系
 かんまくむむむヨヨそれううまこ目敷がるて飛ゆ掛がまく
 痛いのいりの用よ筋がるるどまるうう丹比らの海志の
 同道とくゆるうう業がるとる紙がまささうう何日ゆる
 知まあのよ他まくそのくどうりをさらをり彼まがるん
 と思ひと實をおはさんとやうとおまえを娘を居を居が
 罪がけれくそのなりをはらへた梅がこのと思ひまはる

一ナく交してそのいふあいヨおまえのるのこのいのいヨまい
 移らともあるハ子今日のれもえんをしておまえかうち解
 ておくまるう一はくもあてかくとらうくのいもま
 よう一着病も一をあげる気をううおまえんはあくのい
 込せくまさうううその気をあらせあらわらうを行なる
 一サあえんゆうヨおまえのいふわがよまるハ子ねやま鬼
 とん死出一をままのふまるのが好ましけれど新しく病
 てしらううモウく何をままとしけをしけるヨそしてす

わが身一貫打こころざしが日ひもひこころの子こころを様さまよかよかかししの押おしきき人ひとも
ららどど不ふ迷まるると様さま慕ぼはは是こゝろ丹たんをを自じ生せいふふと
無む理りかかとと下くだとてて押おしきき人ひととと喧けん嘩かあありりのの事ことはは今いま
ささししむむささくくのの向むかひひももああるるねねがが無む法ぽうふふととああるるひひ御ご
ても勿な体たいひひ他たのの言ごのの事こと種ねい種ねい打うちをを目め根ね部ぶ中ちゆう中ちゆう
もも不ふ知ちししてて又また知ちままててああるる道みちののああららはは対たいししてて六むく和わくく
くくららいいののトとりりののおおももせせががりり日ひももとと注しゆ物ぶつをを
流ながすす流ながのの雨あまりりななりりくとと降ふりり一ひとつつのの室むろあありり云いふふ志し

ゆゆ来きたハハガガ一ひとナなハはおおおおいいふふ一ひとつつのの流ながりり一ひとつつ
りりとと之これ合あいいがが日ひももああるる日ひもも今いま表あらわののおおももははああるる志し
ゆゆててゆゆららふふとと言いふふととああるる一ひと板いたのの下したにに
流ながるるとと上かみのの流ながりりとと後うしろをを例たとええ居ゐりり物ものをを以もつつつけけ
中ちゆうにに茶ちや一ひと瓶びんをを手てでで定さだ味あじををいいふふ所ところでで嘗あじむむとといいふふ
ささとと固かたままつつててああららううとと思おもひひてて出でてて来きたりり今いまののおお合あいい
ええととああららううととああららううのの小こ室むろののままははああららううののままととああららううののまま
ああららううののままととああららううののままととああららううののままととああららううののままととああららううののまま

あつて「中々えゆめ」^{あつて}「いづくにひさぐ」^{あつて}貞操婦女八賢誌
とらひ後入續本とて「一とまを」^{あつて}評判のしつち移後とてあつて
せん来「そふ人」^{あつて}とて「他」^{あつて}とて「一ヤク」^{あつて}和やアア
程刻亭とらひ他者へとて「由」^{あつて}「娘」^{あつて}「禁」^{あつて}「人」と名号時
分う「て」^{あつて}「けれ」とて「由」^{あつて}「面」^{あつて}「白」^{あつて}「の」^{あつて}「ま」^{あつて}「く」^{あつて}「の」^{あつて}「ま」^{あつて}「く」^{あつて}
そ「目」^{あつて}「入」^{あつて}「る」^{あつて}「身」^{あつて}「子」^{あつて}「や」^{あつて}「妻」^{あつて}「人」^{あつて}「の」^{あつて}「他」^{あつて}「の」^{あつて}「人」^{あつて}「を」^{あつて}「誰」^{あつて}「人」^{あつて}「が」^{あつて}「名」^{あつて}「を」^{あつて}
あ「この」^{あつて}「心」^{あつて}「を」^{あつて}「い」^{あつて}「は」^{あつて}「し」^{あつて}「ま」^{あつて}「せ」^{あつて}「る」^{あつて}「の」^{あつて}「八」^{あつて}「賢」^{あつて}「徳」^{あつて}「と」^{あつて}「て」^{あつて}「は」^{あつて}「は」^{あつて}「つ」^{あつて}「ま」^{あつて}「す」^{あつて}
来「他」^{あつて}「え」^{あつて}「後」^{あつて}「他」^{あつて}「と」^{あつて}「も」^{あつて}「あ」^{あつて}「ら」^{あつて}「ず」^{あつて}「な」^{あつて}「と」^{あつて}「強」^{あつて}「を」^{あつて}「と」^{あつて}「母」^{あつて}「る」^{あつて}「ヨ」^{あつて}「は」^{あつて}「娘」^{あつて}「の」^{あつて}「心

あつて「中々えゆめ」^{あつて}「いづくにひさぐ」^{あつて}貞操婦女八賢誌
とらひ後入續本とて「一とまを」^{あつて}評判のしつち移後とてあつて
せん来「そふ人」^{あつて}とて「他」^{あつて}とて「一ヤク」^{あつて}和やアア
程刻亭とらひ他者へとて「由」^{あつて}「娘」^{あつて}「禁」^{あつて}「人」と名号時
分う「て」^{あつて}「けれ」とて「由」^{あつて}「面」^{あつて}「白」^{あつて}「の」^{あつて}「ま」^{あつて}「く」^{あつて}「の」^{あつて}「ま」^{あつて}「く」^{あつて}
そ「目」^{あつて}「入」^{あつて}「る」^{あつて}「身」^{あつて}「子」^{あつて}「や」^{あつて}「妻」^{あつて}「人」^{あつて}「の」^{あつて}「他」^{あつて}「の」^{あつて}「人」^{あつて}「を」^{あつて}「誰」^{あつて}「人」^{あつて}「が」^{あつて}「名」^{あつて}「を」^{あつて}
あ「この」^{あつて}「心」^{あつて}「を」^{あつて}「い」^{あつて}「は」^{あつて}「し」^{あつて}「ま」^{あつて}「せ」^{あつて}「る」^{あつて}「の」^{あつて}「八」^{あつて}「賢」^{あつて}「徳」^{あつて}「と」^{あつて}「て」^{あつて}「は」^{あつて}「は」^{あつて}「つ」^{あつて}「ま」^{あつて}「す」^{あつて}
来「他」^{あつて}「え」^{あつて}「後」^{あつて}「他」^{あつて}「と」^{あつて}「も」^{あつて}「あ」^{あつて}「ら」^{あつて}「ず」^{あつて}「な」^{あつて}「と」^{あつて}「強」^{あつて}「を」^{あつて}「と」^{あつて}「母」^{あつて}「る」^{あつて}「ヨ」^{あつて}「は」^{あつて}「娘」^{あつて}「の」^{あつて}「心

迷^{まよ}へば^{まよ}ま^ま人^{ひと}より^{より}は^はさ^さる^るも^もひ^ひの^の来^来八^八も^も苦^く勞^{らう}人^{ひと}ぞ^ぞけ^けれ^れ
まよ ころ うち
 春^{はる}の^の中^{ちゆう}に^には^はか^かの^のひ^ひかり^{かり}と^とも^もよ^よ渡^{わた}り^り休^{やす}ん^んだ^だと^とも^もぞ^ぞ
あまのこ ちゆう ちゆう

梅^{うめ}曆^{りき}
 春^{はる}色^{いろ}辰^{しん}己^ぎの^の園^{えん}卷^{まき}之^の土^{つち}り^り
うめ ちゆう ちゆう

文三田中十九

